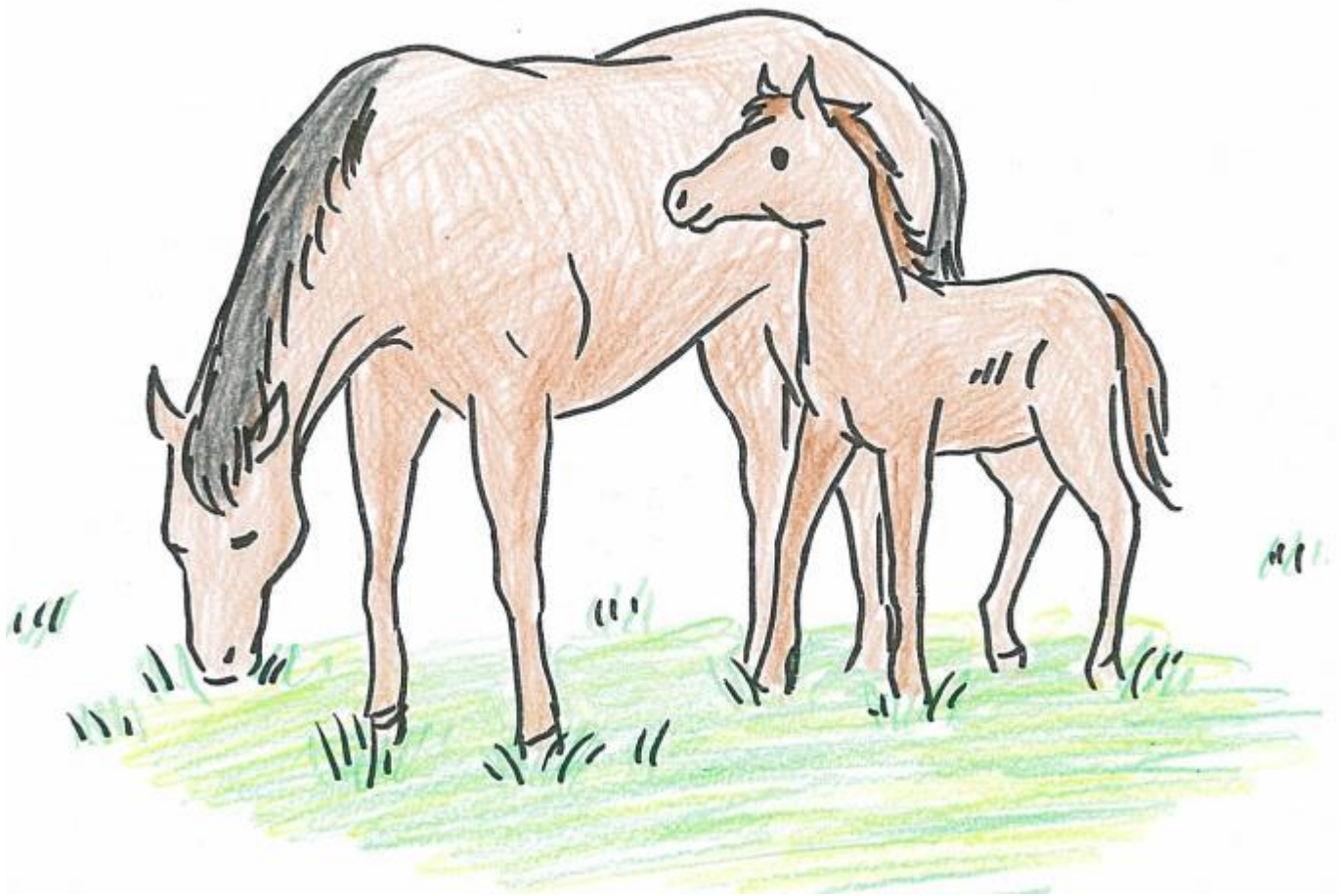




ふちゅう うま
府中と馬



ふちゅう うま むかし かか ぶか
府中と馬は昔から関わりが深いんだよ。

おもしろい話を^{はなし}してあげよう。

それはね・・・

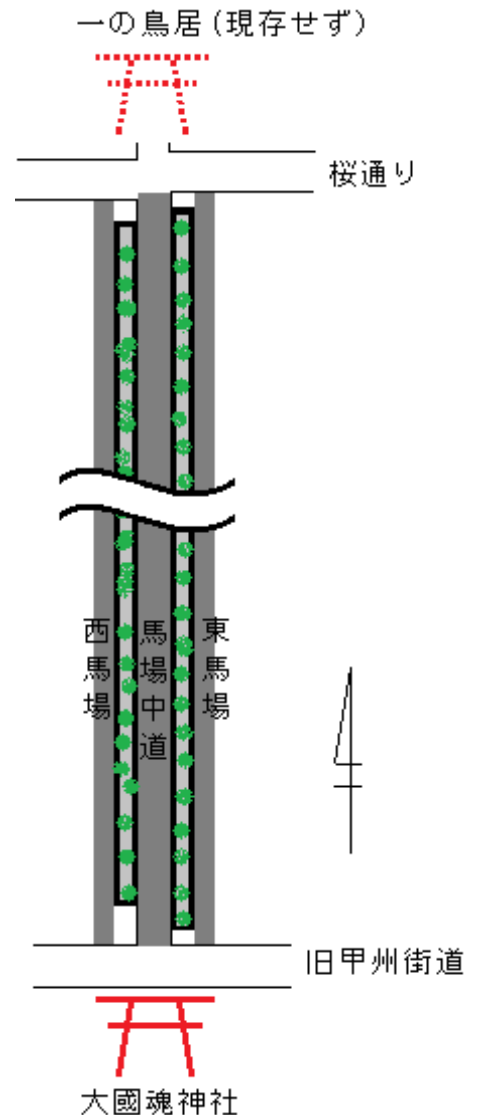


ば ば だいもん なみき
馬場大門ケヤキ並木

ば ば だいもん なみき さくらとお とりいあと おおくにたまじんじゃ
馬場大門ケヤキ並木は、桜通りの一の鳥居跡から大國魂神社の
しょうめんさんどうてまえ なみき りょうがわ ま なか みち
正面参道手前までの並木と、その両側をさします。真ん中の道は、
ば ば なかみち だいもん よ むかし おおくにたまじんじゃ さんどう
馬場中道や大門と呼ばれ、昔は大國魂神社の参道でした。

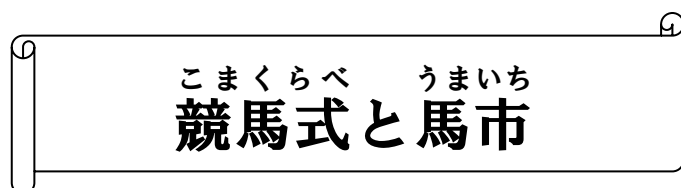
へいあんじだいこうき こうへい ごろ みなもとのよりよし よしいえおやこ
平安時代後期の康平5年(1062年)頃に、源頼義・義家父子
せんしょう れい なえぎ ほん
が戦勝のお礼にとケヤキの苗木干本を
きそう けいちょう
寄贈しました。これにならい、慶長11年
(1606年)には、とくがわいえやす どうよう
(徳川家康が同様に
ろくしょくぐ おおくにたまじんじゃ なえ ば ば
六所宮(大國魂神社)にケヤキの苗と馬場
じょうば れんしゅう うま はし
(乗馬の練習をしたり馬を走らせたりす
る場所)を奉納しました。はっきりとした
ことはわかっていませんが、こうした説が
きげん し はなし
起源として知られています。このような話
は、ろくしょくぐ い つた つう ひろ
は、六所宮の言い伝えを通じて広まったと
かんが
考えられています。

かんぶん じんじゃまえ た
寛文7年(1667年)、神社前に立て
られたせいさつ ちゅうい し か
られた制札(注意やお知らせが書かれた



看板)に、「馬場の土手に植えた苗木を抜き捨てないこと」とあり、この頃には木が植えられていたことがわかります。

ケヤキをふくめた巨木の並木はめずらしく、大正13年(1924年)12月9日、馬場大門のケヤキ並木は国の指定天然記念物になりました。



こまくらべ うまいち 競馬式と馬市

競馬式は数頭の馬を3回走らせる千年以上続いている儀式で、「駒くらべ」と書かれることもあります。

むかし、府中に武蔵国の国府があった頃、府中周辺には良い馬が育つ牧場がたくさんありました。その中からより良い馬を選んで朝廷(政治を行う機関)に納めるために、国司(朝廷から来た役人)はたくさんの馬を集めて走らせていました。これが競馬式のはじまりだとされています。やがて、馬を納めることはしなくなりましたが、競馬式は大國魂神社で行われるくらやみ祭の行事のひとつとして残っています。

むかし、府中^{ふちゅう}には馬^{うま}を売^うり買^かいする馬市^{うまいち}という市場^{いちば}がありました。
いつから始^{はじ}まったのかわかっていませんが、大國魂神社^{おおくにたまじんじゃ}の近^{ちか}くで^{おこな}行^{おこな}
われていたようです。江戸時代^{えどじだい}の初^{はじ}めには、府中^{ふちゅう}の馬市^{うまいち}は良^よい馬^{うま}が手^て
に入^{はい}ることで有^{ゆう}名^{めい}でした。言^いい伝^{つた}えによ^よると、徳川家康^{とくがわいえやす}が天^{てん}下^かをと
るき^きっかけにな^なった戦^{たたか}いでは、府中^{ふちゅう}で買^かった馬^{うま}がた^たくさん使^{つか}われた
と^い言^いわれています。そ^そして、幕府^{ばくふ}が役人^{やくにん}を派遣^{はけん}して将軍^{しょうぐん}のため^{ため}の馬^{うま}
を選^{えら}ぶようにな^なると、大名^{だいみょう}たちも府中^{ふちゅう}で馬^{うま}を買^かったので、馬市^{うまいち}はよ
り多^{おほ}くの人^{ひと}でにぎわいました。

しかし、江戸城^{えどじょう}の近^{ちか}くに新^{あたら}しい馬市^{うまいち}ができたこと^{こと}や、戦^{たたか}いが減^へ
って馬^{うま}を使^{つか}う機^き会^{かい}が少^{すく}なくな^なったこと^{こと}などが原因^{げんいん}で、府中^{ふちゅう}の馬市^{うまいち}は
だ^だん^だんと規^き模^ぼが小^{ちい}さくなり、いつ^{いつ}しか行^{おこな}われなくな^なりました。

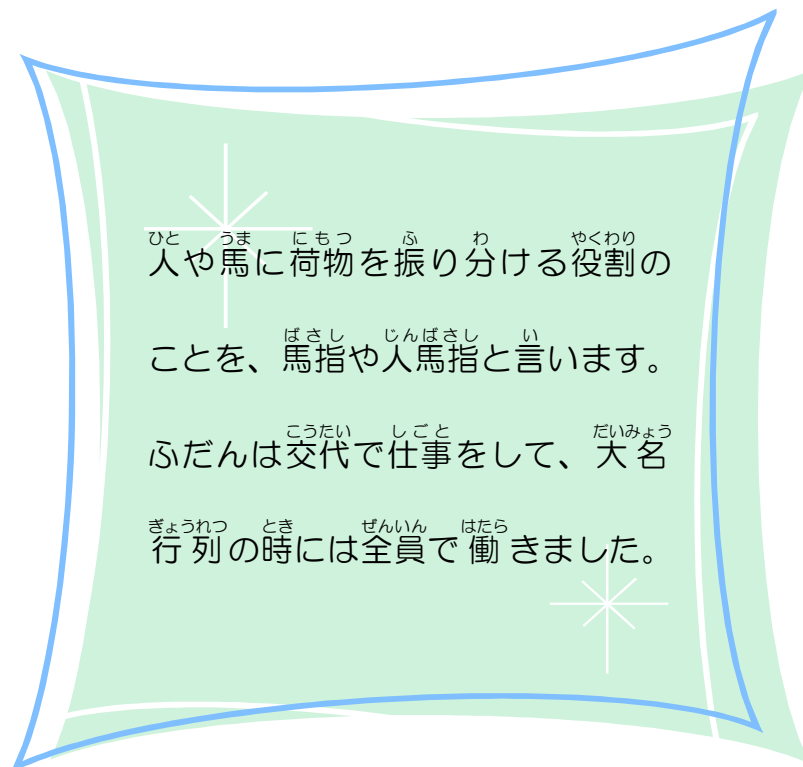
てんまやく 伝馬役

江戸時代^{えどじだい}、幕府^{ばくふ}は重^{じゅう}要^{よう}な道^{どう}路^ろを五^ご街^{かい}道^{どう}と決^きめました。その^{その}う^うち、
江戸^{えど}と甲府^{こうふ}を結^{むす}ぶのが甲州街道^{こうしゅうかいどう}です。その^{その}中^{ちゅう}間^{かん}にある府中^{ふちゅう}は、府中^{ふちゅう}
宿^{しゆく}とよ^よ呼^よばれる宿場町^{しゆくばまち}となり、番場宿^{ばんばしゆく}・本町^{ほんまち}・新^{しん}宿^{しゆく}からなり^{なり}た^たって
い^いま^まし^した。

むかし くるま でんしゃ
昔は、車や電車がなかったので、たびたび馬うまのひとににもつせて人ひとや荷物にもつを
はこ 運びはこててました。運び手ひととなる人ひとや馬うまは、それぞれの宿しゆくで
ようい
用意よういします。この役目やくめを伝馬役てんまやくといいます。

たくさんの人ひとや荷物にもつが府中宿ふちゆうしゆくを通とおりました。府中宿ふちゆうしゆくでは、東ひがしは
ふだ ごとふだしゆくにしひひのしゆく、また高札場こうさつばから南みなみは相州道関戸そうしゅうどうせきど、北きたは川越かわごえ
かいどうおがわむら
街道小川村かいどうおがわむらまでの運送うんそうを行おこなっていたようです。

しゆく
宿しゆくごとにある問屋場といやばでは、継立つぎたてと呼ばれる人ひとや馬うまの乗り換えかが
おこな
行おこなわれます。宿しゆくでは、決きまった数かずの人ひとや馬うまをようい用意よういすることになっ
ていました。足りたりなくなると近隣きんりんの村むらから助たすけてもらすけごう、助郷すけごうとい
う制度せいどがありました。



うま いしゃ しもよいちろう 馬の医者・下与市郎


むかし、「御馬屋」とか「御馬屋敷」と呼ばれていたお屋敷が、
おおくにたまじんじゃ とうなん あた
大國魂神社の東南の辺りにありました。そこに住んでいたのはしもし
という一族で、だいたい しもよいちろう なまえ ひきつ ごけにん えど
という一族で、代々、下与市郎の名前を引継ぎ、御家人として江戸
ばくふ つか
幕府に仕えてきました。

ごけにん とくがわけ ちよくせつつか かしん めみえい か
御家人とは、徳川家に直接仕えている家臣のうち、『お目見以下
（しょうぐん あ たちば いっぱん い
（将軍に会うことができない立場）』のものと一般に言われていま
す。しもよいちろう なか そうぞく とき えどじょう つつじのま
す。下与市郎はその中でも、相続する時に江戸城の『躑躅之間』で
い わた せきいじょう みぶん ごけにん おお えどじょう
言い渡される『席以上』という身分でした。御家人の多くは江戸城
の近くに住んでいました。しかし、しもし いえ ごけにん
の近くに住んでいました。しかし、下氏の家は御家人としてはめず
らしく、えどじょう はな ふちゅう
らしく、江戸城から離れた府中にありました。

しもし ふちゅう す
下氏が府中に住むようになったのは、えどじだい はじ ごろ
かのぼります。おうめむら す
青梅村に住んでいた初代の下与市郎は、おおさか じん
大坂の陣に
とくがわいえやす とくがわひてだ たも うま ちりょう せわ
徳川家康もしくは徳川秀忠のお供をし、馬の治療や世話などをした
そうです。その後、ご ふちゅう やしき あた しょだい だいめ
その後、府中にお屋敷を与えられ、初代から三代目まで
しょうぐん つか うま びょうき うま おうまや うま か
は将軍が使った馬や病気になった馬などを御厩（馬を飼っておく
こ や あす きょうほう たい だいしょうぐん
小屋）で預かっていたようです。享保8年（1723年：第八代将軍

とくがわよしむね じだい だいいめ とき おうまや はいし だいいめ そうぞく
徳川吉宗の時代)、三代目の時に御厩が廃止されると、四代目が相続
する時に『馬医心懸』という役職を与えられました。しかし、実際
には名前だけで仕事はありませんでした。このまま新たな役職が与
えられることなく、下氏は幕末を迎えます。

けいおう たいせいほうかん ばくふ てんのう せいじ けんり かえ
慶応3年(1867年)に大政奉還(幕府が天皇に政治の権利を返
すこと)が起こると、駿府藩(今の静岡県)の藩主となった第十六代
とくがわけとうしゅ とくがわいえさと したが しもし とうしゅ すんぷ うつ す
徳川家当主・徳川家達に従って、下氏の当主は駿府に移り住みます。
その後、名前を下文朔とし、その息子は下逸郎と名乗りました。下与
いちろう なまえ え と ばくふ お どうじ つか
市郎の名前は江戸幕府が終わると同時に使われなくなったようです。

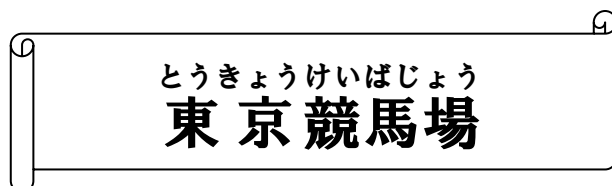


うまさか 馬坂

とうきょうけいばじょう きたがわ ふちゅうがいせん もり ひろ
東京競馬場の北側にある府中崖線は、こんもりとした森が広がり、
しずかなたたずまいを見せています。この森には、くさ やね ちゃしつ
静かなたたずまいを見せています。この森には、草ぶき屋根の茶室な
どを持った鳩林荘があります。この鳩林荘の西に、きた む きゅう
どを持った鳩林荘があります。この鳩林荘の西に、北へ向かう急な
さか坂があって、うまさか よ
坂があって、馬坂と呼ばれています。

え どじだい あた ばくふごけにん しもし やしき
江戸時代、この辺りには幕府御家人の下氏のお屋敷がありました。
いちぞく しょうぐん つか うま し こ うま びょうき うま
この一族は、将軍が使った馬やこれから仕込む馬、病気の馬などを

あず せ わ い とうきょうけいばじょう うまさか なまえ めいじ
預かって世話をしていたと言われています。馬坂という名前は、明治
じたい ころ つか ゆらい あき
時代の頃にはすでに使われていたようですが、その由来は明らかで
はありません。この地に住んでいた下氏の家が「御馬屋」とか
「御馬屋敷」と呼ばれていたことから、うまさか なづ
馬坂と名付けられたのかも
しれません。



とうきょうけいばじょう
東京競馬場

たいしょう しょうわ ふちゅう ところ だい き ぼ
大正から昭和にかけて、府中にはいろいろな所から大規模な
しせつ しんしゅつ しょうわ めぐる げんざい
施設が進出してきました。昭和8年（1933年）に目黒から現在
ばしょ いてん とうきょうけいばじょう
の場所に移転してきた、東京競馬場もそのひとつです。

めぐる いてんさき き こ こうほち
目黒から移転先を決めるときには、100を超える候補地があげ
られたそうです。とち ひろ こうつう べんり みず ほうふ しつ よ
土地が広く交通が便利なこと・水が豊富で質が良い
こと・きょうそうば た あおくさ じゅうぶん
競走馬に食べさせる青草が十分にあることなどのたくさんの
じょうけん み まち ねっしん いてんうんどう おこな
条件を満たしていて、さらに町をあげて熱心な移転運動が行われ
たので、ふちゅう さいてきち えら げんざい けいば さいてん い
府中が最適地として選ばれました。現在は、競馬の祭典と言
われるとうきょうゆうしゅん にっぽん おお
東京優駿（日本ダービー）や、ジャパンカップなど大きなレ
ースがかいさい こくないさいだいきゅう けいばじょう
ースが開催される国内最大級の競馬場となっています。

けいばじょう きたがわ みやまち ちようめ) には、げんえき ふこうにもげがやびょうき
競馬場の北側(宮町三丁目)には、現役のまま不幸にもげがや病気で
な なくなった 競走馬を 供養するために 建てられた 馬霊塔がありま
す。この塔の両側には 十数もの 石碑が 建っていて、レースに 10 戦
ぜんしょう して「まぼろしの馬」と呼ばれた『トキノミノル』のほか、とうきょう
全勝して「まぼろしの馬」と呼ばれた『トキノミノル』のほか、東京
ゆうしゅんだいきょうそう ゆうしょう した『ガヴァナー』など 歴代の名馬の名前が 刻ま
れて います。また、ばれいとう となり には ばとうかんのん がまつられて います。



とうきょうけいばじょうまええき ふちゅうけいばせいもんまええき 東京競馬場前駅と府中競馬正門前駅

かつて、東京競馬場の西側（矢崎町一丁目）に日本国有鉄道（J

Rの昔の名前)下河原線の終着駅、東京競馬場前駅がありました。

現在の下河原線道がその路線にあたります。

下河原線は東京競馬場前駅から北府中駅を通り、国分寺駅まで走

っていました。もともとは多摩川でとれる砂利を運び出すための

鉄道でしたが、昭和9年（1934年）から競馬開催期間に限って

乗客を運ぶようになったのです。

戦争中の昭和19年（1944年）には競馬もできなくなったの

で、運行が中止されました。戦争が終わって、昭和22年（194

7年）に競馬開催日の営業を再開し、昭和24年（1949年）か

らは一年中運行するようになりました。そして、昭和48年（19

73年）、武蔵野線が開業した日に廃駅となりました。この東京競

馬場前駅という駅名は、日本国有鉄道の中で一番長い駅名だった

時期（1949～1952年）があります。

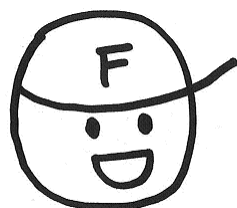
しょうわ 8年(1933年)、^{ふちゅう}府中^{とうきょうけいばじょう}に東京競馬場^{しんじゅくほうめん}ができると、新宿方面
からの^{かんきやく}観客^{けいおうでんききどう}は京王電気軌道^{けいおうでんてつ}(京王電鉄^{むかし}の昔^{なまえ}の名前)を利用^{りよう}しまし
た。しかし、^{えき}駅^{とお}から遠く^{ふべん}不便^{げんざい}だったので、^{ひがしふちゅうえき}現在の東府中駅^{ばしょ}のある場所
に^{りんじけいばじょうまええき}臨時競馬場前駅^{かいせつ}を開設^{えきまえ}し、^{けいばじょう}駅前^{いりぐち}から競馬場の入口^{れんらくじどうしゃ}まで連絡自動車
^{はし}を走^{はし}らせました。

しょうわ 12年(1937年)、^{えき}駅^{なまえ}の名前^{ひがしふちゅうえき}を東府中駅^{へんこう}に変更^{へんこう}しました。
やがて、もっと^{らく}楽^{けいばじょう}に競馬場^{かんきやく}へ観客^{はこ}を運^{しょうわ}ぶため、昭和30年(195
5年)^{ひがしふちゅうえき}に東府中駅^{あた}ら^{ろせん}から新^{つく}しく路線^{けいばじょう}を作り、競馬場の入口^{いりぐち}に^{ふちゅうけいば}府中競馬
^{せいもんまええき}正門前駅^{かいせつ}が開設^{かいせつ}されました。



もっと知りたくなったら読む本のリスト

書名 (本の名前)	著者 (本を書いた人) など	出版年	本の背ラベル
わが町の歴史 府中	えんどう よしつぐ 遠藤 吉次	1985年	F21/E
きょうどふちゅう へいせい ねんど 郷土府中 平成26年度	ふちゅうしりつちゅうがっこうしゃかいがふくどくほんへんしゅういんかい 府中市立中学校社会科副読本編集委員会 ／編集	2014年	F21/K
ふちゅうしぶんかざい しりょう 府中市文化財めぐり資料	ふちゅうしきょういくいんかいぶんかぶしゃかいきょういくか へん 府中市教育委員会文化部社会教育課／編	1982年	F21/F
ふちゅうし れきし しんばん むさしこくふ 府中市の歴史 新版 武蔵国府のまち	ふちゅうしきょういくいんかいしやうがいがくしゅうぶしやうがいがくしゅうか 府中市教育委員会生涯学習部生涯学習課 ぶんかざいたんどう へんしゅう 文化財担当／編集	2006年	F21/F
いしづみ草紙 路傍の語り部たち	ぶんか ぶぶんかしんこうか へんしゅう 文化スポーツ部文化振興課／編集	2010年	F29/I
ふるさとの坂	ふちゅうしせいにかつぶんかぶんかじぎょうか へん 府中市生活文化部文化事業課／編	1985年	F29/F
くにしていんねんきねんぶつばだいもん なみき 国指定天然記念物馬場大門のケヤキ並木 ふちゅうしきょうど もりはくぶつかん 府中市郷土の森博物館ブックレット	ふちゅうしきょうど もりはくぶつかん 府中市郷土の森博物館	2005年	F47/K
ふちゅうし ぶんかざい 府中市の文化財	ふちゅうしきょういくいんかい 府中市教育委員会	1997年	F70/F
ふちゅう とうきょうけいばじょう 府中と東京競馬場	けいばはくぶつかん へん JRA競馬博物館／編	1995年	FZ4/788/F
ふちゅうしし じょうかん げかん 府中市史 上巻・下巻	ふちゅうししへんさんいんかい 府中市史編纂委員会	1974年	F213/10/F
ふちゅうしし へん 府中市史 付編	ふちゅうししへんさんいんかい 府中市史編纂委員会	1967年	F213/10/F
こうしゅうかいどう ふちゅうしゆく 甲州街道 府中宿 ふちゅうしきょうど もりはくぶつかん 府中市郷土の森博物館ブックレット	ふちゅうしきょうど もりはくぶつかん 府中市郷土の森博物館	2008年	F682/10/K



さがしている本が見つからないときは、図書館の人にきいてみよう。

「府中と馬」こども府中はかせ No.4 2015年3月発行

府中市立図書館 編集・発行

<http://library.city.fuchu.tokyo.jp/>